

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26244008

研究課題名(和文) 東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究

研究課題名(英文) Study of the image of the appearance in Confucianism to consider as a base of the East Asia culture

研究代表者

守屋 正彦 (MORIYA, MASAHIKO)

筑波大学・芸術系・教授

研究者番号：90272187

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 20,200,000円

研究成果の概要(和文)：調査期間中に進めてきた東アジアに展開する儒教美術の表象の研究は最終年度で、釈奠における孔子表象の研究を中心としたものに考察対象を絞り、国際会議を行った。国際会議は筑波大学国際会議室を会場に、2018年1月26日に開催し、杜正勝(台湾中央研究院院士)、陳芳妹(台湾大学教授)、James McMullen(Oxford大学名誉教授)、關信子(美術史家)による発表を受けて、これまでの研究成果を研究代表者、分担者が行い、その成果報告は『「釈奠 - 東アジアの孔子祭典を考える」報告論文集』(2018年3月31日)として刊行し、東アジアにおける儒教美術研究の横断的な研究基盤形成への端緒を開いた。

研究成果の概要(英文)：It is the final year of Confucian art research. For that reason, we focused on the Confucius Festival and made an international conference. The International Conference was held on January 26, 2018 with the International Conference Room of the University of Tsukuba as the venue. Presentation was made by Mr. Suu Masaru (Taiwan Central Research Institute), Chen Yostang (Professor of Taiwan University), James McMullen (Emeritus Professor of Oxford University), Kanoshi Kinoshi (Art historian). Following the announcement, research representatives and shareholders have announced their research results so far. The report on the outcome of the meeting was published as "" Banquet - Concept of Confucius in East Asia "Report Papers" (March 31, 2018). As a result, I was able to get to the start line for cross-cutting research foundation of Confucian art research in East Asia.

研究分野：美術史

キーワード：釈奠 礼拝空間 表象資料 孔子像 東アジア 孔子廟 湯島聖堂 祭器

1. 研究開始当初の背景

(1) 儒教美術を解釈するという視点での事例を挙げての研究は、本研究以前には体系的な考察は見られない。美術史学における各論としての研究では土居次義「狩野山雪の歴聖大儒像」(『近世日本画研究』美術出版社 1970)、辻惟雄「狩野松栄筆廿四孝図屏風」(『美術研究』第 243 号 1966 年)、河野元昭「探幽と名古屋城寛永度造営御殿」(『美術史論叢』2,4,6 1988~90)など、諸賢による近世絵画の先行研究が見られ、また孔子の彫像では三山進「近世七条仏所の幕府御用をめぐって 新出の資料を中心に」(『鎌倉』第 80 号 1996)が近年の論考として新知見を示している。美術史による最初は「正信筆三聖ノ図」(國華第 4 号 1890)が早く、以後、これまでに凡そ 60 数編にいたる論文が著されてきた。多くは画題を解釈し、作品研究として貴重な論考と位置づけることができる。礼拝空間については鈴木三八男編『日本の孔子廟と孔子像』(斯文会 1874)が概説的な基礎文献として評価されている。また、中国、台湾、朝鮮での儒教美術の研究はけっして多いわけではなく、個人研究の域を出ない。儒教美術のカテゴリーとして「聖賢図」や「帝鑑図」、「三教図」など、それらに対する儒教観に立つ画題の註議も十分に行ってきたわけではない。そのため応募者は海外の研究者の協力のもと、「東アジアにおける儒教美術の展開についての国際会議」(「礼拝空間における儒教美術の総合的研究」(基盤(B)課題番号 21320027)会場:湯島聖堂、期日 2012 年 8 月 5 日)を開催し、将来の研究拠点を念頭に研究交流の拠点としての準備を整えてきた。

(2) 本研究では『東アジアの共同体』として孔子文化をとらえ、東アジアにおける孔子を祀るあり方を美術史的な観点を中心に協議してきた。その結果、当該課題に加え、西欧に至る孔子文化、美術的な表象に伴う、派生する文学や演劇、歴史、考古にみられる表象など山積する研究課題が確認でき、それが研究の学術的な背景として大きく機能し、横断的な情報基盤による全世界的な相互交流が必要ではないかと考えるに至った。

2. 研究の目的

(1) 東アジアにおける諸地域の異化同化のあり方を確認し、これを比較し、考察するためにこれまでの研究で協力をいただいた中国、台湾、韓国をはじめ、孔子廟が存在するベトナム等における儒教文化に関わる研究者を共同研究者に迎え、研究の実質化を進めてきた。予想される結果としては東アジア、とくに漢字文化圏が広がった諸地域に孔子廟の存在が窺えるところから、その礼拝空間を象徴的に解釈する。

(2) 東アジアにおける儒教文化、その礼拝空間に見られる「かたち」の同一性と地域的特性を比較し、国際的な観点での研究拠点構築を念頭に、東アジア諸地域の儒教形象に関わる資料の、実地ならびに文献による悉皆調査を

行い、電子媒体を通してアーカイブ化し、美術史、哲学・思想、歴史学、文化財科学等の研究者による協働的な調査研究を進めながら、統合的な研究協議の場を創出して、相互にレビューを得つつ、研究の実質化の調整を図る。

3. 研究の方法

(1) 東アジア諸地域における儒教の礼拝空間に見られる形象を基盤データとして広く収集し、(2) その調査資料をもとに、東アジア諸地域の礼拝空間を比較考証して、顕れたかたちの同一性と地域的、時代的特性を見出し、(3) これにより、東アジアに展開した儒教文化の視覚イメージに関する現時点での統合的な研究成果をアーカイブ化する。

4. 研究成果

(1) 研究成果については、当初は湯島聖堂礼拝諸像の復元研究、わが国近世絵画に見る儒教絵画、のちに中国、台湾、韓国の礼拝空間に見られる形象について美術史、歴史、思想史、服飾史など様々な観点から各年度の研究成果を報告書・論文集にまとめることができた。

また最終年度に James McMullen 氏(Oxford 大学)や杜正勝氏(中央研究院歴史語言研究所)、陳芳妹氏(台湾大学)など海外の研究協力者を交えて国際会議「積奠 東アジアの孔子祭典を考える」を開催し、その成果を報告書にまとめることができた。

(2) 2014 年度には、当該年度の研究成果を研究分担者、協力者と纏め『「東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究」調査報告論文集』(1~83 頁、2015 年 3 月。執筆者は守屋正彦(研究代表者)・秋山学(分担者)・水野裕史(分担者)・陳芳妹(協力者))を刊行した。

(3) 2015 年度には復元研究成果を「湯島聖堂本尊孔子像彩色復元特別展 聖堂ゆかりの狩野派の絵画」(会期:2015 年 4 月 3~12 日、会場:筑波大学附属図書館・筑波大学大学会館アートスペース)として公開した。また当該年度の研究成果を『「東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究」論文集』(1~158 頁、2016 年 3 月。執筆者は守屋正彦(研究代表者)・秋山学(分担者)・勝木言一郎(分担者)・陳芳妹(協力者))にまとめるとともに、復元研究成果については、『「東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究」復元研究成果報告論文集』(1~71 頁、2016 年 3 月。執筆者は守屋正彦(研究代表者)・柴田良貴(分担者)・程塚敏明(分担者)・木村浩(分担者)・藤田志朗(分担者))を刊行した。

(4) 2016 年度には『「東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究」論文集 2017』(1~120 頁、2017 年 3 月。執筆者は守屋正彦(研究代表者)・勝木言一郎(分担者)・山澤学(分担者)・秋山学(分担者)・小出真理子(分担者)・中村玲(分担者)・内藤航(協力者))を刊行した。

(5)2017 年度は最終年度として国際会議「釈奠 東アジアの孔子祭典を考える」を開催し、その成果を『儀礼空間の表象 釈奠 東アジアの孔子祭典を考える』(1~136 頁、2018 年 3 月)。同会議出席者を執筆者とし、基調講演を行った杜正勝、特別講義を行った James McMullen・陳芳妹・関信子(いずれも研究協力者)の寄稿、また守屋正彦(研究代表者)・井川義次(分担者)・秋山学(分担者)・勝木言一郎(分担者)・小出真理子(分担者)の論文を収載した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 28 件)

1. 守屋正彦、「礼拝空間における孔子像と釈奠について」、『儀礼空間の表象 釈奠 東アジアの孔子祭典を考える』、査読無、2018 年 3 月、75 - 83 頁
2. 井川義次、「西洋における儒学受容の変遷」、『儀礼空間の表象 釈奠 東アジアの孔子祭典を考える』、査読無、2018 年 3 月、85 - 89 頁
3. 秋山学、「哲人と政治 孔子とギリシア哲学者たちをめぐって」、『儀礼空間の表象 釈奠 東アジアの孔子祭典を考える』、査読無、2018 年 3 月、91 - 100 頁
4. 勝木言一郎、「中国仏教美術に見る儒学思想の受容と展開」、『儀礼空間の表象 釈奠 東アジアの孔子祭典を考える』、査読無、2018 年 3 月、101 - 128 頁
5. 小出真理子、「湯島聖堂釈奠図の服飾表現における一考察」、『儀礼空間の表象 釈奠 東アジアの孔子祭典を考える』、査読無、2018 年 3 月、129 - 134 頁
6. 守屋正彦、「批孔の文革時代を考える 中川コレクションに見る中国絵画 国画について」、『東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究』、査読無、2017 年 3 月、1-52 頁
7. 守屋正彦、「近世における孔子像の礼拝について」、『東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究』、論文、2017、査読無、2017 年 3 月、7-17 頁、
8. 守屋正彦、「儀礼空間の表象 日本の孔子像の変遷について」、『筑波大学芸術学研究誌『藝叢』第 32 号、査読有、2017 年 3 月、46 (1) -35 (12) 頁
9. 秋山学、「「五悔」から「五秘密」へ 慈雲著『金剛薩埵修行儀軌私記』(1802 年)の位置づけをめぐって」、『文藝言語研究 文藝篇』72、査読有、2017 年 9 月、1 - 45 頁
10. 秋山学、「慈雲尊者の無表論 『表無表章随文釈』を中心に」、『筑波大学 地域研究』38、査読有、2017 年 3 月、1 - 18 頁
11. 水野 裕史、「狩野永納筆《秀吉鷹狩絵巻》下絵と勸修寺家」、『デアルテ 33 号』、査読有、2017 年 6 月、49-66 頁
12. 水野裕史、「近世初期における帝鑑図の制作背景 儒教思想の展開を中心に」、『九州地区国立大学教育系・文系研究論文集 18 号』、査読有、2017 年 3 月、1-9 頁
13. 小出真理子、「狩野常信筆《明皇花陣図絵巻》の服飾表現における一考察」、『東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究 論文集』、査読無、2017 年 3 月、71-80 頁
14. 守屋正彦、「狩野探幽筆「野外奏楽図・猿曳図」屏風とその儒教的主題」、『筑波大学芸術学研究誌『藝叢』第 31 号、査読有、2016 年 3 月、1 - 12 頁
15. 守屋正彦、「日本の湯島聖堂と中国孔子廟について」、『東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究』、論文、2016 年 3 月、7~18 頁
16. 井川義次、「イエズス會士を仲介とする中国哲学情報のヨーロッパ流入とその反響」、『日本中国学会報』第六十八集)査読有、2016 年 10 月、199 - 209 頁
17. 井川義次、「中国哲学情報向欧洲啓蒙思想的流入：以斯比塞爾《中国文史評析》(De re litteraria Sinensium commentarius) 为中心受」、『国際學術研討會“相遇与互鑒：利瑪竇与中西文化交流”論文集卷二』、査読無、2016 年 11 月、238 - 287 頁
18. 井川義次、「儒家思想对欧洲理性与啓蒙時代的影響：關於世界秩序及無神論的人類自治」、『「儒家思想在啓蒙時代的認識与接受」國際學術工作坊論稿集』、査読無、2016 年 11 月、199 - 209 頁
19. 秋山学、「義浄と慈雲尊者 有部律から四分律へ、そして正法律へ」、『東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究』、論文、2016 年 3 月、19 - 32 頁
20. 山澤学、「久能山東照宮の成立と祭祀組織」、『静岡市編『久能山誌』(静岡市発行)、査読無、2016 年 3 月、78-98 頁
21. 勝木言一郎、「敦煌における父母恩重經变相の図像に関する一考察 仏教美術における儒教思想の受容と展開の一例として」、『「東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究」論文集』、筑波大学日本美術史研究室、査読無、2016 年 3 月、33~69 頁
22. 守屋正彦、「林羅山と江戸初期狩野派・・・ 絵画主題をめぐる羅山の関与について」、『「東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究」調査報告論文集』、査読無、2015 年 3 月、71-82 頁
23. 井川義次、「張居正『四書直解』之宇宙觀与宗教觀 耶蘇會之容納与啓蒙主義者の回應」、『西学東漸与儒家經典翻譯國際學術研討會議文集』、中山大學哲學系、査読無、2015 年 11 月、44-55 頁
24. 秋山学、「慈雲尊者による儒教理解」、『神

- 儒偶談』『法華陀羅尼略解』『雙龍庵大和上垂示』を手がかりに、『古典古代学』7、査読有、2015年3月、39-66頁
25. 水野裕史、「林原美術館蔵《帝鑑図屏風》について」、『東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究』調査報告論文集、査読無、2015年3月、59-69頁〔学会発表〕(計8件)
1. 守屋正彦、日本の孔子像の変遷について、第69回美術史学会全国大会、2016年5月28日、つくば国際会議場 大ホール(茨城県つくば市)
 2. 守屋正彦、礼拝空間における孔子像と釈奠について、国際会議「釈奠 東アジアの孔子祭典を考える」、2018年1月26日、筑波大学国際会議室(茨城県つくば市)
 3. 井川義次、西洋における儒学受容の変遷、国際会議「釈奠 東アジアの孔子祭典を考える」、2018年1月26日、筑波大学国際会議室(茨城県つくば市)
 4. 秋山学、哲人の政治活動をめぐって 孔子とプラトン、国際会議「釈奠 東アジアの孔子祭典を考える」、2018年1月26日、筑波大学国際会議室(茨城県つくば市)
 5. 山澤学、近世後期徳川將軍家と儒学国際会議「釈奠 東アジアの孔子祭典を考える」、2018年1月26日、筑波大学国際会議室(茨城県つくば市)
 6. 勝木言一郎、中国仏教美術にみる儒教思想の受容と展開、国際会議「釈奠 東アジアの孔子祭典を考える」、2018年1月26日、筑波大学国際会議室(茨城県つくば市)
 7. 小出真理子、湯島聖堂釈奠図の服飾表現について、国際会議「釈奠 東アジアの孔子祭典を考える」、2018年1月26日、筑波大学国際会議室(茨城県つくば市)
 8. 水野裕史、釈奠に用いた絵画 狩野山雪筆《歴聖大儒像》、国際会議「釈奠 東アジアの孔子祭典を考える」、2018年1月26日、筑波大学国際会議室(茨城県つくば市)

〔図書〕(計3件)

1. 守屋正彦、筑波大学刊『文化財復元研究成果公開 湯島聖堂本尊孔子像 彩色復元特別展 ~ 聖堂ゆかりの狩野派の絵画』(筑波大学発行)、2015年、1~36頁
2. 秋山学、「慈雲尊者最晩年期の密教思想 『理趣経講義』から『法華陀羅尼略解』へ」、春秋社刊『異文化理解とパフォーマンス』、2016年7月、282-300頁
3. 山澤学、「久能山東照宮の成立と祭祀組織」、静岡市編『久能山誌』(静岡市発行)2016年3月、78-98頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年月日：
 国内外の別：

〔その他〕
 ホームページ等
<http://www.tsukuba.ac.jp/event/e201801091400.html>
<http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~hikom/index.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

守屋 正彦 (MORIYA Masahiko)
 筑波大学・芸術系・教授
 研究者番号：90272187

(2) 研究分担者

藤田 志朗 (FUJITA Shirou)
 筑波大学名誉教授
 研究者番号：10181356

程塚 敏明 (HODOTSUKA Toshiaki)
 筑波大学・芸術系・准教授
 研究者番号：40292544

勝木 言一郎 (KATSUKI Genichiro)
 東京国立博物館・学芸企画部・室長
 研究者番号：50249918

井川 義次 (IGAWA Yoshitsugu)
 筑波大学・人文社会系・教授
 研究者番号：50315454

水野 裕史 (MIZUNO Yuji)
 筑波大学・芸術系・助教
 研究者番号：50617024

木村 浩 (KIMURA Hiroshi)
 筑波大学・芸術系・准教授
 研究者番号：60241808

山澤 学 (YAMASAWA Manabu)
筑波大学・人文社会系・准教授
研究者番号：60361292

秋山 学 (AKIYAMA Manabu)
筑波大学・人文社会系・教授
研究者番号：80231843

柴田 良貴 (SHIBATA Yoshiki)
筑波大学・芸術系・教授
研究者番号：90178913

小出 真理子 (KOIDE Mariko)
湘北短期大学・生活プロデュース学科・講師
研究者番号：60756394

(3)連携研究者

沖松 健次郎 (OKIMATSU Kenjiro)
東京国立博物館・学芸研究部・調査研究課
絵画・彫刻室 室長
研究者番号：30332133

入口 敦士 (IRIGUCHI Atsushi)
国文学研究資料館・研究部・准教授
研究者番号：80243872

大久保 範子 (OKUBO Noriko)
筑波大学・芸術系・助教
研究者番号：80620252

(4)研究協力者

菅野 智明 (KANNO Chiaki)
筑波大学・芸術系・教授
研究者番号：90272088

渡邊 晃 (WATANABE Akira)
太田記念浮世絵美術館・主任学芸員

伊藤 たまき (ITO Tamaki)
柳津町立斎藤清美術館・学芸員

中村 玲 (NAKAMURA Rei)
実践女子大学・文学部・助教
研究者番号：80745175